

令和 2 年度ウミガラス保護増殖事業 実施計画 (案)

1. 誘引対策

(1) 音声装置の稼働

ウミガラスを誘引する音声装置を、赤岩基部に 3 月中に設置・稼働する。抱卵が開始される 5 月まで稼働させ、その後は巣棚内のモニタリングカメラより状況を確認する。

2. 飛来・繁殖調査

繁殖地内カメラや目視等により、飛来数、餌運び、雛及び巣立ち等の調査を実施する。特に近年は繁殖範囲が拡大していることから、できる限り広角にカメラを設置し、繁殖箇所の把握に努めるようにする。

(1) 繁殖地内カメラ及び関連機器の設置・稼働

メンテナンスを終えたカメラ及び関連機器を 4 月中に設置し、動作確認を行う。

落石によるケーブル断線を回避するよう繁殖地から電源までのケーブルのルートを変更する予定。

(2) 渡り調査

ウミガラスの渡りの時期である 10 月～翌年 3 月に、航路センサスによる渡りの調査を、月 1 回程度実施する。

(3) 目視調査

その他随時、目視による調査を行う。

3. 捕食者対策

過年度に引き続き、オオセグロカモメ・ハシブトガラスの捕食者対策を実施する。

(1) 銃器 (エアライフル) による捕獲

1) 実施時期

5 月から 8 月 (週 1 回程度)

2) 実施範囲・捕獲上限数

a) オオセグロカモメ

ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある赤岩対崖繁殖地周辺の個体を捕獲する。ただし、近年のオオセグロカモメの繁殖状況を踏まえ、状況に応じて捕獲範囲を縮小するなどの対応を行う。

b) ハシブトガラス

ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある海鳥繁殖地・ねぐら周辺の個体を捕獲する。

(2) モニタリング調査

ハシブトガラスについて、抱卵期・育雛期・巣立ち期などステージごとの個体数をラインセンサス調査などで把握し、効果的な対策方法や時期などについて、検討を行う。

オオセグロカモメについても、天売島海鳥研究室の調査に協力し個体数に変動がみられるか調査する。

(3) ハシブトガラスの巣落としによる捕獲

ハシブトガラスの巣落としによるヒナ・卵の捕獲を行う。

4. 普及啓発活動

ウミガラスの繁殖状況について、報道機関へのプレスリリース、天売島や北海道海鳥センターでの住民向けの説明会を行う。また、海鳥に関するイベント等でもウミガラスの保護増殖事業について普及啓発を行う。

5. その他

(1) 個体識別方法の検討

個体識別方法について、海外の文献や事例を調べて、実施可能性について検討を行う。また、個体群に関する遺伝子解析についても、文献調査等から実施可能性の検討を行う。

(2) 葛西臨海水族園との連携

検討会委員である葛西臨海水族園と連携を行い、飼育下での情報提供などを進める。

(3) その他希少鳥類（ケイマフリ、ウミスズメ）調査

1) ケイマフリ

前年度に引き続き、個体数調査と繁殖数調査を行う。

2) ウミスズメ

可能な範囲で、海上個体数調査を行う。

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月～
1. 誘引対策							
(1) 音声装置の稼働		●	→				
2. 飛来・繁殖調査							
(1) 繁殖地カメラの稼働		●	→				
(2) 渡り調査	●	→					
(3) 目視調査	●	→					
3. 捕食者対策							
(1) エアライフルによる捕獲			●	→			
(2) 捕食者モニタリング調査	●	→					
(3) ハシブトガラスの巣落とし		●	→				
4. 普及啓発活動	●	→					
5. その他							
(1) 個体識別方法の検討		●	→				
(2) 葛西臨海水族園との連携	●	→					
(3) 希少海鳥の調査	●	→					
ウミガラスの行動(R1年実績)	←	→					
		●	●	●	●	●	
		繁殖地へ移動、繁殖行動	抱卵	育雛	巣立ち		